エドワード・S・モース

モースは、アメリカ合衆国メイン州ポートランド市に生まれました。少年の頃から貝類の収集や分類に興味をもち、21 歳の時に動物学者ルイ・アガシーの助手となり、33 歳でボードイン大学教授として動物学を教えるようになりました。明治 10 年（1877）38 歳の時、ホオズキガイやシャミセンガイなどの腕足類の研究と採集のために来日し、横浜から新橋へ向かう汽車の中から大森貝塚を発見しました。モースは東京大学の初代動物学教授に迎えられ、進化論を紹介したことで知られています。他にも陶器の収集や日本建築の研究など幅広く活躍しました。

年譜

1838 年　6 月 18 日アメリカ合衆国メイン州ポートランド市に誕生
1859～62 年　21～24 歳　動物学者ルイ・アガシーの助手となる
1863 年　25 歳　ネリー・オーエンと結婚
1867 年　29 歳　セイラムにピーボディー科学アカデミーが設立され、そこの所員となる
1871 年　33 歳　ボードイン大学教授となる
1875 年　37 歳　最初の著書『動物学初歩』出版
1877 年　39 歳　6 月　腕足類研究のため来日（第 1 回来日）
6 月　大森貝塚発見
7 月　東京大学動物学・生理学教授となる
9 月　大森貝塚発掘調査はじまる
11 月　帰国
1878 年　40 歳　4 月　妻子を伴い来日（第 2 回来日）
1879 年　41 歳　7 月　『大森貝塚』出版
9 月　帰国
1880 年　42 歳　ピーボディー科学アカデミーの館長となる
1882 年　43 歳　6 月　来日して陶器を収集する（第 3 回来日）
1883 年　44 歳　2 月　横浜を発ち帰路ヨーロッパを旅行し、6 月帰国
1886 年　48 歳　『日本のすまい　内と外』出版
1890 年　52 歳　モースの陶器コレクション、ボストン美術館所蔵となる
1892 年　54 歳　ボストン美術館の日本陶器部の管理者となる
1898 年　60 歳　日本政府から勲三等旭日章を贈られる
1901 年　63 歳　『モース日本陶器コレクション』出版
1915 年　77 歳　ピーボディー科学アカデミーをセイラム・ピーボディー博物館と改称

1916 年　78 歳　セイラム・ピーボディー博物館名誉館長となる
1917 年　79 歳　『日本その日その日』出版
1922 年　84 歳　日本政府から勲二等瑞宝章を贈られる
1925 年　87 歳　12 月 20 日マサチューセッツ州セイラムで死去
1926 年　　遺言により全蔵書が東京大学へ寄贈される

日本初の動物学実験所

モースは来日してすぐ江ノ島に小屋を借り、夏の間そこで腕足類の研究・採集を行いました。これは日本で初めての動物学実験所とされ、その跡には記念碑が建っています（神奈川県藤沢市江ノ島 1-6-32）。

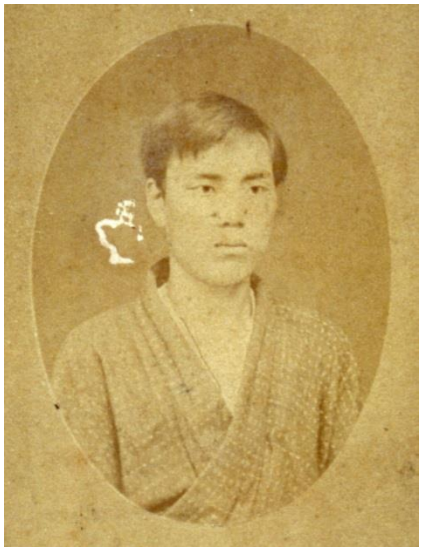
日本各地を旅したモース

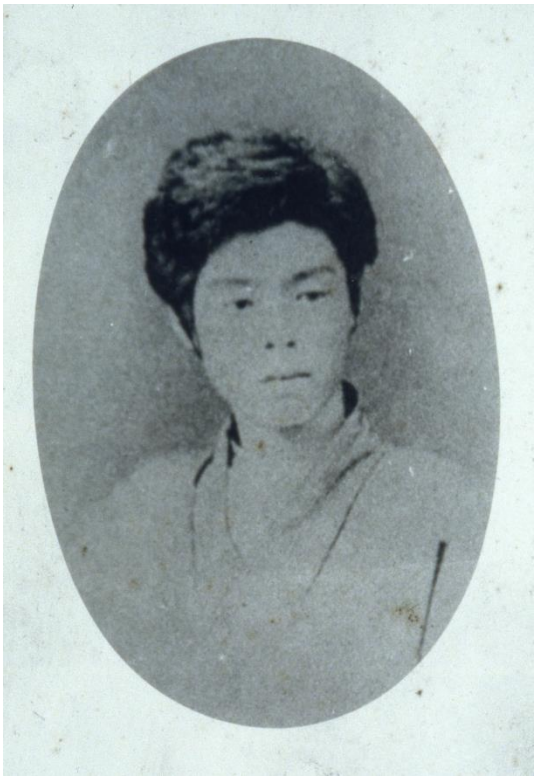
モースは日本全国を旅してまわり、日本人の生活を観察して日記と巧妙なスケッチにおさめました。これらは『日本その日その日』として出版され当時の日本を記録した民俗誌として有名です。また、モースの集めた陶器や民具は今でもボストン美術館やセイラム・ピーボディー博物館に所蔵されており、当時の日本を知る貴重な資料になっています。

モースの教え子たち

モースの教え子には、松浦佐用彦（まつらさよひこ）、佐々木忠次郎（ささきちゅうじろう）、松村任三（まつむらじんぞう）、飯島魁（いいじまいさお）などがいます。松浦佐用彦は大森貝塚発掘にも従事しましたが、発掘調査報告書の完成前に 22 歳の若さで亡くなりました。モースはその死を悼み、墓石の費用を工面し、裏に次のような英文を刻ませました。

「忠実な学徒にして誠実な友、自然を愛した友。物質界でも、精神界でも、最後に判定をくだすのは権威ではなく、観察と実験であるとの信念を抱いていた人。それが松浦君であった。」

2_02_01 	**松浦佐用彦**（1857～1878） 高知県出身。大森貝塚の発掘に従事しましたが、発掘調査報告書の完成を見ずに貝塚発見の翌年22歳で亡くなりました。
2_02_02 	**佐々木忠次郎**（1857～1938） 福井県出身。大森貝塚の発掘調査に参加し「大森貝塚」碑の発起人となりました。後に昆虫学へ進み、近代養蚕学・製糸学の発展に貢献しました。

2_02_03 	**松村任三**（1856～1928） 茨城県出身。モースの江ノ島での研究や大森貝塚の発掘・研究などを手伝い、後に植物学者として活躍しました。
2_02_04 	**飯島魁**（1861～1921） 静岡県出身。佐々木忠次郎とともに陸平（おかだいら）貝塚の発掘調査を行いました。後に日本の鳥類学、寄生虫学の祖となりました。